



南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第1号
令和8年 4月8日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<http://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>

一人一人の笑顔を輝かせるために

校長 関根治彦

私の宝物の一つに、退職された校長先生からいただいた書籍が入ったダンボールがあります。中には古い本もたくさんありますが、どの本にも全て同じ新しい付箋が付いており、「関根よ。ここは読むべきところだぞ。」と、その校長先生が私のために貼ってくれたものと勝手に思っています。この冬の年末年始に、その中から『なぜ働くのか～力強い一歩を踏み出すために』という書籍の中の山田洋次（映画監督）氏の『信じて見つめること』を読みました。もちろん付箋付きです。

『寅さん』を演じた俳優の渥美清さんと、長年ともに仕事をしました。『男はつらいよ』シリーズでよく地方ロケに行きましたが、決まってその町の中高生が撮影を見にやって来ました。平日の昼間。学校にも行かずにブラブラしている子どもたち。大抵は、派手な学ランを着て、髪の毛に剃りの入った、いかにも不良といった少年たちです。渥美さんという人は、なぜかそういう子どもに目が行くようでした。撮影が休憩に入ると、渥美さんは彼らに声を掛けます。「こっちへ来い」と呼び寄せて、少しの間、言葉をかわす。すると、それまで挑戦的だった彼らの目が、たちまち子どもらしい純粋なものに戻っていくのです。たった数分で、彼らは渥美清の子分ようになってしまう。そんな光景を、私は何度も見てきました。

目の前にいる大人が、自分をどのような眼で見ているのか。温かく見守っているのか、それとも冷たく見下ろしているのか。そういう子どもは、特に敏感に感じ取るものです。「この人は、俺達のことをちゃんと見てくれているんだ」。彼らには、そんな渥美さんの温かな“眼差し”が一瞬にして分かったのでしょうか。

人との信頼関係というものは、相手のことを見つめる眼にかかっているように思います。映画監督が、俳優に演技指導するときも、コイツ下手だなという意識で接すれば、その気持ちが絶対に相手に見抜かれてしまう。逆に、必ずいい演技ができるはずだ、と信じて見つめれば、おのずといい芝居を引き出すことができるものです。

『お互い人間はあたかもダイヤモンドの原石のごときもので、磨くことによって光を放つようになる。そして、磨き方やカットのしかたによって輝き方も変わってくる。』

「人間は誰もが磨けば光る、様々なすばらしい素質をもっている。だから、人を育てるにあたっては、まずそういう人間の本質をよく認識し、それぞれの人が持っているすぐれた素質が生きやすい配慮をしていくことが大切だ。」…経営の神様と言われた松下電器の創業者である松下幸之助氏の言葉です。

令和8年度がスタートしました。今子どもたちは、新しいクラスで、どんな1年間になるのかとワクワクしていることと思います。私たち南郷小学校の職員は、この春休み子どもたちを見つめる“温かな眼差し”を大切に、ダイヤモンドの原石である“南郷小学校の子どもたち”の伸びや成長を認め、よさがたくさん光り輝くように、様々な準備をして参りました。そして、それが実現できるよう1年間全力で取組を進めてまいります。

保護者の皆様方や地域の皆様方には、これまでと同様に南郷小学校への温かなお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。